

18歳で自立できる人間を育てる

中・長期
ビジョン

目指す
児童生徒
像

- 元氣なあいさつができる児童生徒
- 思いやりのある児童生徒
- 夢や希望に向かって努力する児童生徒

経営の
基本方針

- 1 児童生徒の障がい特性に対応した指導
- 2 人権尊重と組織的な対応
- 3 安心で安全な教育環境の整備

評価項目	学部・分室	年度当初			
		評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	具体的方策
主体的な学びを促す取り組み	高等部	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら考え、物事に主体的に取り組み、最後まであきらめずやりぬく力を育てる。 ○基本的な生活習慣・集団規律、学習規律が習慣化された生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標を明確にすることで、達成にむけて取り組もうとする生徒が多い。 ○自信がなかったり教師の指示を待たずすることが多く、自ら考えて動くことが少ない。また、自分の行動がその後のどうなるかを考えず衝動的に行動してしまう生徒が多い。 ○基本的な生活習慣や学習規律については、今までの取り組みでできるようになってきている部分も多いが、どの場面でもできるかという難しいところもある。 ○生徒指導上の問題で、SNSによるトラブルが多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを持って行動し、目標に向かって最後までやり遂げようとしている。 ○卒業後の社会に向け、個々の実態に応じて必要とされる基本行動を確立している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業のねらいや指導・支援方法の共通理解を図るために情報共有の時間を充実させ、ITの役割を意識して指導にあたる。 ○iPadなどの機器を活用したり学習活動を工夫したりしながら生徒自らが積極的に学習を振り返り、考え、周囲に伝える時間を設定する。 ○行事や表現、音楽等、集団で「合わせる」ことを意識する学習を有効に使いながら集団規律の確立を目指したり、生徒の達成感へつなげたりする。 ○「県立高等部全員で取り組むこと」を各教室に掲示し、学部全体で同じ指導内容で取り組むとともに、「身だしなみチェック」や「今月の身だしなみ強張りポイント」を委員会活動の中に位置づけ、生徒が主体的に自分たちで気を付けていこうという意気持を持つようにする。
	中学部	<ul style="list-style-type: none"> ○目標に向けて、最後までやり抜こうとする生徒の育成 ○基本的な生活習慣、学習規律など基本的なルールやマナーが身に付いた生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習にまじめに取り組んでいるが、受け身的なことが多く、声かけや指示を待っている生徒も多い。 ○やりたいことや得意なことは一生涯懸命になるが、苦手なことは途中であきらめてしまったり生徒もいる。 ○あいさつ、身だしなみなど意識して取り組んでいる生徒も多いが、まだ十分に定着はしていない。 ○自分の都合のよさや楽なやり方に変えて行動してしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が、自分の目標に向けて最後までやり抜くようとしている。 ○進んであいさつをする、時間を守る等、集団生活や学習の規律を守って、行動しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「やれば、できる!!」を中学部の合い言葉にし、随時、学習、集会等で生徒に意識付けしていく。 ○授業作り研修等を活用して、中学部の生徒が目指す「主体的な学びの姿」を具体的に、職員でイメージを共有する。 ○生徒が活躍できる場面を創意工夫し、生徒自身が自分の変化を確認でき、達成感や成就感が感じられるようなわかりやすい授業や手立てを工夫する。特に自己の学びがわかる評価方法を工夫し、授業改善に取り組む。 ○学年会(随時)、授業作り研修(月1回)、個を語る会(学期1回)等で日頃から情報交換を密にし、生徒理解に努め生徒につけたい力(目指す姿)を明確にし、共通理解や役割分担しながら指導にあたる。
	小学部	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的・主体的に活動に取り組み、最後まで頑張ろうとする児童の育成 ○表現する楽しさを味わい、進んで関わろうとする児童の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな活動に意欲的に取り組もうとする児童が多い。 ○興味関心の偏りや初めてのことにに対する不安から、なかなか取り組もうとしないか途中であきらめてしまったりすることもある。 ○相手を意識して伝えようとする姿が増えてきているが、場面や相手、方法が限られていることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が「頑張ること」に向かって意欲的に学習に取り組む、苦手なことにもチャレンジして、最後まで頑張ろうとしている。 ○伝えたい相手や内容を意識して積極的にコミュニケーションをとろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「頑張ること」を児童と共有し、見通しを持って楽しみながら活動に取り組めるよう、授業作り研修などを活用して授業改善に努める。 ○学年会や個を語る会を適宜設定し、昨年度までの積み上げや今年度つけたたい力、ねらいを明確にして、職員間で共通理解して指導にあたる。 ○いろいろな「発表」や「伝え合う」場を設定する。児童がより意欲的に活動できるように場の設定や表現方法を工夫したり、伝える相手の幅を広げたりする。
表現力向上	表現力向上	<ul style="list-style-type: none"> ○表現力向上のねらいを学校全体で理解を深めるために音楽、表現活動の授業を見合う会や全体研修を設定する。 ○けんべい祭での発表が児童・生徒の成功体験となるように各学部・学校行事部との連携推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学部間の連携と協働を進める上での「カフェや神楽の活用」を念頭に、表現活動での人と「合わせる」ことの意味や目的など学校全体で共通理解する必要がある。 ○歌唱、楽器の使用など制限がある学習にけんべい祭を軸とする表現活動発表の場を昨年度の取り組みを参考にしながら、各学部間で連携・検討していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽、生声、表現活動を推進教科とし、音楽や表現活動の学習を見合う会(記録として動画で残す)や全体研修を設定する。 ○「合わせる」というテーマを大切にしながら、各学部でのけんべい祭での発表やその他の場面での表現活動としての取り組みについて各学部間で情報交換したり、学校行事部と連携を取ったりしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「なぜ、音楽に取り組んでいるのか、どのような力がついてきているのか」についての全体研修を行い、各学部での表現活動推進・連携を目指した研修を行う。 ○各学部での取り組みや工夫していること、今後の課題など情報交換を行い連携を図っていく。
体力向上	体力づくり推進	<ul style="list-style-type: none"> ○体力づくり推進計画をもとに、小学部、中学部、高等部で行っている体力づくりの具体的な内容を検討する。 ○小学部の体力づくりに関する取り組みを明確にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体力づくり推進計画を意識した、取り組みが共有されていない。 ○小学部では体力づくりを自立活動と体力づくり推進部が担っており、体力づくりをどのようにしていくかが共通理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体力づくり推進計画の身体的要素の取り組みを具体的に実践していく。 ○小学部の体力づくりと自立活動の連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学部で行っている体力づくりを動画で記録し系統的に分類していく。 ○自立活動部で行っている小学部児童の個々の活動内容を記録を、体力推進部が検討し、話し合っていく。
経営の基本(指導力・人権尊重・教育環境・教育組織・情報発信)	教務部	<ul style="list-style-type: none"> ○教科等における適切な目標設定と観点別評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領により目標設定や評価の考え方が変わり、指導要録・個別の指導計画の様式を改めた。しかし、目標設定や観点別評価の考え方、新様式の記入の仕方等はまだまだ十分に理解されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導要録や個別の指導計画の新様式の記入の仕方の理解を深め、教科等における適切な目標設定や観点別評価ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導要録や個別の指導計画の新様式の記入の仕方について全体研修及び随時ミニ研修を実施していく。 ○学部主事や学部教務と連携を密にし、目標設定や評価の仕方の理解を進める。 ○評価については、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度のそれぞれに関する記述でフオントの色を変えて分かりやすくする。 ○先生方の困り感等を積極的に把握し、迅速に対応していく。
	学校行事部	<ul style="list-style-type: none"> ○「体力づくり推進計画」、「表現力推進計画」に基づく行事のねらいや取り組みへの反映 	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度からの引継ぎをもとに「けんべいスポーツチャレンジ」を企画し実施計画を提案。コロナ禍の中、学部ごとの分散開催ということで共通理解を得、各学部と連携を図りながら計画を進めている。また、「けんべい祭」の企画、立案、実施に向け、準備を進めている。第1回の提案は、6月を予定している。コロナ禍の中であるという情勢を考慮して計画を立てていく必要があると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ねらいや取り組みの視点を明確にすることで、児童生徒が学習の積み重ねを生かすことと発表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体力づくり推進、表現力向上と連携しながらねらいや取り組みの視点を明確にして行事の企画、運営をしていく。 ○各学部、各分室との連携を密にし、全体をまとめていく。
	研修部	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員が教育活動を行う上で必要な研修を行う ○「各教科等を合わせた指導」についての授業づくりの実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎年職員の入れ替えが大きいので、学校教育活動全般における確認事項や特別支援教育についての研修を行う必要がある。 ○新学習指導要領の全面実施時期であることから、昨年度の授業づくりの成果と課題を活かしながら更に研修を積み、取り組みの定着と発展を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員が教育活動を行う上で必要な研修を計画し実施している。 ○「各教科等を合わせた指導」において、各学部の重点項目について研修を積み、自己やグループの授業づくりに活かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員が教育活動を行う上で必要な研修の視点から研修計画を立て、各担当者と相談しながら調整を行う。 ○全体研修や学部研修等が充実するように、研修の持ち方を示したり、内容の精選や工夫をしたりするように各担当者に働きかける。 ○全体の授業づくり研修の重点を受け、各学部の重点を立案し、研修を企画・運営する。 ○全体の公開授業を伴う授業研修日を設け、講師の指導助言をいただく。 ○各学部の取り組みを共通理解できるように、全体の報告会を設ける。
	安全指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○危機管理意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症対応、アレルギー対応など、危機管理意識を高く持って指導・支援にあたるような研修、注意喚起を年間を通して行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の実態や行動の把握、疾患や感染症への対応について共通理解し、教職員一人一人の危機管理の意識が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して、緊急時の対応方法の周知徹底をする機会を持ち、教職員一人一人が危機管理意識を高く持って指導・支援にあたるように働きかける。 ○感染症や熱中症等に対する注意喚起や対策・対応などの情報発信を引き続き徹底し、常に危機管理意識を持ち続けるよう啓発していく。
	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○組織的・継続的、迅速な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題行動等の発生時には迅速に生徒指導委員会を実施し、組織的、継続的な対応をすることができているが、十分な対応策が見いだせないケースもあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導上の諸問題について、組織的、継続的な対応を迅速かつ適切に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各委員会のねらいを丁寧に伝える機会を持ち、職員全体で共通理解をもって実施できるようにする。 ○各委員会の情報共有はしっかりと行い、議論する内容をできるだけ絞り、適切な対応につとめる。 ○前年度に引き続き、系統性を意識した各種規程等の見直しを進めていく。
	人権教育部	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒及び教職員の人権意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○チェックリストの活用や研修により、教職員の人権に対する意識が高まってきている。児童生徒の人権意識については、意識が高まった部分も見られるがまだまだ十分とはいえない。 ○教職員が人権尊重の理念について十分理解し、児童生徒が自らの大切さを認められていることを実感できる環境作り並びに授業実践について具体的に考えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒が相手を思いやる等、人権意識の高まりが見られる行動が、年度当初より増えている。 ○教職員が人権尊重に配慮したコミュニケーションをとったり、信頼関係を築いたりすることで、児童生徒が自己肯定感を高め、課題解決へ向かう姿が以前より多く見られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の人権意識を高める機会を設ける(児童生徒と一緒に使える手話講座、人権感覚を磨く教師の自己チェックリストの内容項目の掲載等) ○人権尊重を意識したコミュニケーションについて、外部講師を招いて研修の機会を設ける。 ○昨年度把握した課題について自己チェックリストに掲載し、具体的な方策について意見を集約し、共通理解を図る。
	センター支援部	<ul style="list-style-type: none"> ○説明会や学校見学、教育相談における発信方法の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な状況に左右されず、就学検討等に必要情報を確実に発信するための方法について検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT等を利用した説明会や学校見学、教育相談を試行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報発信に必要な資料(写真や動画を含む)を収集し、整理する。 ○説明会のオンライン開催に向けて、他分室と連携しながら準備する。
	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○対話を大切にしたいいねいな進路指導 ○保護者、教職員のニーズに応じた研修 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導を適切に行っていく上で、教師の児童・生徒の実態把握に基づき助言や進路先、福祉サービス事業所に関する情報提供は欠かせない。教職員が、進路先や福祉サービスについて説明できるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員が、児童・生徒の卒業後のイメージを持ち、保護者との進路に関する懇談や会話の中で、進路に関する説明をすることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○卒業後の進路に関する基本的情報や進路決定の流れの研修をする。 ○小・中・高、それぞれの段階に必要な進路に関する情報を提供する。 ○担任、保護者からの進路に関する相談・質問に答えられるよう進路担当が各事業所に出かけ情報収集をする。
	総務部	<ul style="list-style-type: none"> ○コンプライアンスの遵守 ○新しい環境、変化にふさわしい組織づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○鳥取県教育委員会の目標とした時間外業務時間の平成29年度比25%削減を達成することができた。時期によっては45時間超となる教職員もあり、削減に努める必要がある。 ○新型コロナウイルス感染症の拡大・蔓延により教育への影響も大である状況は今後も暫く続くことが予想される。教育を行う上で、急な予定変更やIT活用の促進等、めまぐるしく環境や状況が変わることに対して教職員間の対話や協働を通じた納得解のもとでの迅速な対応が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間外勤務が月45時間、年間360時間を超える教職員の解消ができていく。 ○すべての教職員が、迅速な報告・連絡・相談・確認に努め、協働して業務の遂行を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会議時間の短縮、会議や業務の精選について検討し、可能なものは削減する。 ○給与・勤怠システムを活用により具体的な数値として可視化し、各自又は毎月の衛生委員会や個別の時間外業務時間を確認する。 ○業務の遂行に関するアンケートを半期(前期・後期)ごとに実施する。